

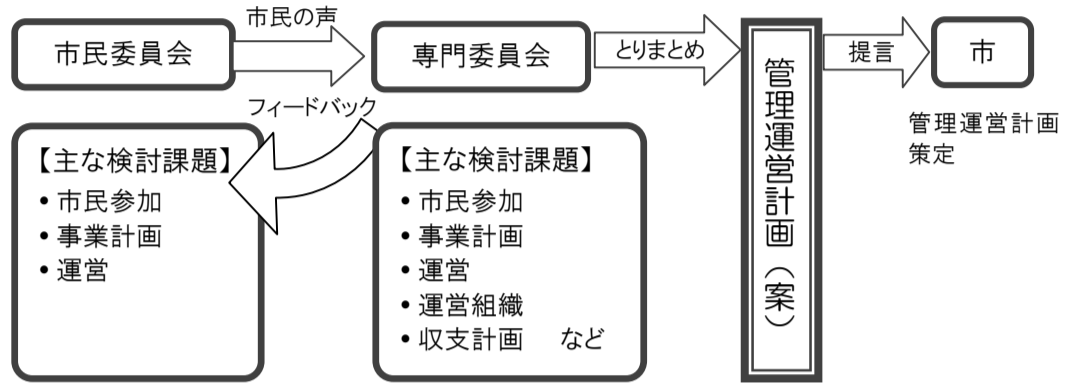


先進事例視察「施設運営の現場を見てみよう！！」

8月24日、いずれも横浜市内にある「KAAT 神奈川芸術劇場」と「横浜市磯子区民文化センター杉田劇場」の視察を行い、市民委員10名(女性3名、男性7名)、市の事務局スタッフ等7名、その他の事務局スタッフ2名の合計19名が参加しました。
市民委員会で検討している文化施設の事業や運営の様子、市民参加のあり方を実際に見て歩き、どのような発見があったのでしょうか？

市民ホール管理運営計画市民委員会とは？

小田原市では現在、平成28年度の市民ホール完成に向けて、整備を進めており、これまで、平成22年度に基本構想、23年度に基本計画を策定しました。
24年度は、市民ホールを芸術文化創造の拠点とするための運営システム、事業計画及び市民参加のあり方等の方向性について定める、「市民ホール管理運営計画」を策定します。
管理運営計画の策定に当たっては、多くの市民の皆さんからご意見を伺い、管理運営計画の参考とするため、ワーキング形式の「市民委員会」を開催します。
市民委員会は、様々な立場や視点による市民の声を集約していく場とし、いただいたご意見は、文化施設や文化活動に関する専門家で構成される「専門委員会」でさらに検討を重ね、計画案として形にしていきます。



KAAT 神奈川芸術劇場

小田原市民になじみの薄い創造系機能の活用について具体的なイメージを膨らませるため、スタジオを見学し、利用状況や運営方法を支配人の蔭山陽太さんに解説していただきました。



開館日：平成23年1月11日
専有延床面積：約18,600㎡(地上10階地下1階複合施設の一部)
施設内容：ホール(可動約1,200席)、大スタジオ(405㎡)、中スタジオ・小スタジオA(401㎡・可動間仕切りにより251㎡・147㎡に分割可)、アトリエ(小スタジオB)(149㎡)ほか
指定管理者：公益財団法人神奈川芸術文化財団

舞台芸術の専門劇場として、芸術の創造・人材の育成、賑わいの創出というテーマで運営しています。

- ◆KAATは創造・発信をミッションとした、専門性の高い施設と位置づけています。スタジオはホールの舞台に準じる広さを備えており、ホール公演のリハーサルに使用できる一方で、スタジオでの公演も行われています。
- ◆大スタジオは稽古と公演をセットにした長期の貸出が中心です。また、中スタジオや小スタジオAを使用する公演は年5演目程度で、稽古のための利用がほとんどです。
- ◆「良いものを創るためにはNOと言わない」をポリシーとし、ホールとスタジオは基本的に床面への釘打ちやテープ貼付、砂・水の使用も可能としています。
- ◆施設利用の申し込みが重複した場合、抽選ではなく利用調整を行います。
- ◆ハード面では舞台芸術専門劇場としてフレキシブルに対応できる最新の機能と設備を備えている一方で、その設営には専門的な技術を持った人手と時間がかかります。
- ◆どのような運営方法がその地域に合うのかは、住民でないと分かりません。行政と民間とが一緒になって考えていくのがいちばん良いあり方ではないでしょうか。

横浜市磯子区民文化センター 杉田劇場

ホールがもたらす交流やにぎわいを体感するため、翌日(25日)に開催される「杉田劇場夏まつり2012」の準備の様子を杉劇地域文化アドバイザーの中村牧さんに案内していただきました。



開館日：平成17年2月5日
専有延床面積：約3,000㎡(地上30階地下1階複合施設のうち1階・4階・7階の各一部)
施設内容：ホール(318席)、ギャラリ(113㎡)、リハーサル室(99㎡)、練習室(3室)ほか
指定管理者：公益財団法人横浜市芸術文化振興財団・有限会社アイコニクス・株式会社東急コミュニティー共同事業体

地域密着型の文化センターとして、様々な世代が集まり、楽しめる場所を目指しています。

- ◆横浜市内の区民文化センターでは、施設に親しんでもらうことを目的に、夏休みの時期に「オープンデー」を開催しています。杉田劇場ではテーマを「夏祭り」とし、誰でも参加できる文化祭のような催しを目指しています。
- ◆地域の施設において、キーワードとなるのは子どもと高齢者です。子どもと団塊世代以上の方々により結成され、出張演奏や地方への遠征を行っている「杉劇リコーダーズ」のメンバーの間には、家族のような関係ができています。
- ◆市民ボランティア組織として、施設内の装飾や公演のサポートなどを行う「杉劇@助っ人隊」があります。活動は無償で、定期的に交流の場を設けてメンバーから要望や提案を出してもらい、活動に反映させています。
- ◆地域に密着した施設となるため、町内会や商店街のほか、横浜市(区役所・市営交通・消防など)や警察とも良好な関係を築いています。
- ◆磯子区以外からも多くの方が来館しています。区民文化センターではありますが、区民だけでなく、杉田劇場が好きな人みんなに来てほしいという気持ちで運営しています。

小田原市・間瀬勝一芸術文化担当課長のミニレクチャーの内容をご紹介します

- ◆神奈川芸術劇場で行われている利用調整は、抽選によらないため不公平が生じることもあります。また、長期利用や床面への釘打ちは、作品づくりの場としては当然に必要ですが、演劇専門のホールだからできることです。市民が様々な目的で利用できるホールとする場合は、一定の制約が必要で、柔軟な運用をより重視してはなりません。
- ◆区民文化センターには「気軽に足を運べる場」と「特別なハレの場」の二面性がありますが、「夏祭り」は前者で、当日は施設内が様々な世代の人でごった返します。杉田劇場の運営は、「建物を管理する」というよりも「皆が楽しく過ごせる場所をつくる」という意識がベースになっています。
- ◆演劇専門のホールとして芸術の創造・発信に適した運営を行う神奈川芸術劇場と、区民文化センターとして誰もが気軽に足を運べる場所を目指す杉田劇場は、施設が目指す方向性としては両極端な例といえます。小田原の市民ホールではどちらの比重を大きくし、どのような施設を目指していくのかを考えなくてはなりません。

【間瀬 勝一 プロフィール】

1968年藤沢市民会館に舞台技術者として入社。93年(財)横浜市芸術文化振興財団に入社し、旭区「サンハート」、泉区「テアトルフォンテ」、栄区「リリスホール」、神奈川区「かなっくホール」、磯子区「杉田劇場」館長を歴任。2005年逗子文化プラザホールの開館より運営に携わる。12年より現職。10年より(社)全国公立文化施設協会アドバイザー。

★★★参加した市民委員の皆さんの「ひとことアンケート」をご紹介します★★★

※たくさんのご感想をいただいたため、抜粋としています。

- ◆ どちらもスタッフが強いポリシーをもって進めているのが大きな力になっていると思いました。そのような人をどのように選ぶか、また市民や地域の組織とのつながりをどのように作るか、又は市民の中からそのような役割の人を育てていくかが課題だと思いました。ふたつの方向性が混ざらないように区分して進めるほうが良いかもしれません。
- ◆ やっぱり「人」だね！ 劇場もまちづくりも…杉田劇場を見て、そう実感！ 小田原でも、まちに生きる市民の「息づかい」や「体温(温もり)」が感じられる、一体感・熱気・パワーある劇場にしたいなあ～！
- ◆ ①神奈川芸術劇場は10階建てで市民ホールとちょっと建物環境が違うようですが、スタジオの色(黒)と操作盤等のことでは参考になった。②杉田劇場の祭りの企画が良いと思った。
- ◆ 運営の姿勢として、「一定のこだわりを持つのか(KAAT)」「何でもありなのか(杉田劇場)」、いずれの場合も、まずその地域性を重んじ、適確な目標・目的を定めることが重要であると、今さらながら感じました。
- ◆ とても参考になりました。
- ◆ KAATと杉田劇場というまったく持ち味のちがうホールを見せて頂いて、ホール運営とは本気度の勝負、提供する内容の充実度だと再認識しました。ホールの個性をどうつくるか、難題ですね。
- ◆ 今日の視察は充実した一日でした。神奈川芸術劇場は斬新なアイデアで、素晴らしい一言でした。大ホール内の見学ができず残念でした。杉田劇場は庶民的で親しみやすい感じでした。財政厳しい中、生きた財の使い道をしたいですね。
- ◆ 今まで把握できていなかった「運営」の部分が随分明確になりました。「官」による一元的管理という時代前のイメージを一気に払拭し、官・民の融合の形態を実体験することができました。「百聞は一見にしかず」参加して良かったです。
- ◆ それぞれ特徴のあるホールで、目的を明確にすることの重要性を再認識いたしました。小田原にそれぞれの特徴を活かすことは重要ですが、その結果かえって中途半端なものになってしまうように気をつけなければならず、あらためて東京・横浜との距離感と小田原独自の文化の接点の構築が不可欠と痛感いたしました。